



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 221
August
2011

トピックス

関係機関との防災協力推進

↑ APEC民間部門の緊急事態対策ワークショップ

↑ インドネシアにおける地震火山の総合防災策

ADRC客員研究員レポート

↑ アンナ・リサ・ドゥマギン・オラーリョ

↑ シシラ・ワニナヤケ

●関係機関との防災協力推進 APEC民間部門の緊急事態対策ワークショップ

平成23年8月1日～3日、宮城県仙台市において「APEC民間部門の緊急事態対策ワークショップ（APEC Workshop on Private Sector Emergency Preparedness）」が日本と米国の共催で開催され、18カ国・地域の政府関係者や危機対応の専門家、企業経営者ら100人超が参加しました。なお本会合は、3月11日に発生した東日本大震災後、被災地で開催された初の政府間国際会議となっております。

自然災害が多発するAPECアジア太平洋地域は、社会構造的に緊密なサプライチェーンで結ばれており、自然災害が発生した場合に地域全体の経済活動へ与える影響も極めて大きいことが認識されています。そのため、民間企業の災害時の事業継続のための備えの重要性について情報共有・議論し、域内へ展開・推進することを目的として、民間部門の事例の紹介、緊急時の事業継続計画（BCP）定着化の手法、政府の果たすべき役割について議論を行うための会合を開催することとなりました。

会合では、民間企業のBCPという概念と重要性、BCPの浸透状況、BCPのケーススタディ（被災企業の対応ぶり）、BCP作成・推進のための参考資料（ツールキット）提供、BCP推進のための官民協力、APEC域内協力のあり方などについて報告と議論がなされました。アジア防災センター（ADRC）からは域内におけるBCPの浸透状況について報告を行い、更なる普及の重要性について問題提起を行いました。また、最終日には、東日本大震災の津波による被災地や、実際にBCPが機能し、被災後に早期復旧できた仙台市の中小企業への視察が行われました。



Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

インドネシアにおける地震火山の総合防災策

ADRCは、平成21年度から日本・インドネシアの両国において地震や火山噴火による減災を目的とした、「インドネシアにおける地震火山の総合防災策」事業に参加しています。この事業では、多くの大学や研究機関がそれぞれの研究テーマに応じて参画しています。ADRCは防災教育を取り扱うグループに研究機関の一つとして所属していて、主に教材開発と教員及び生徒の防災知識向上を目的とした活動を行っています。

2011年7月14日、インドネシアのバンダアチェにおいて、カウンターパートであるインドネシア科学院（LIPI）とシャクアラ大学インドネシア津波防災センター（TDMRC）を交えて今年度の事業展開と翌日以降に開

続き

催するワークショップ及び避難訓練について内容確認を行いました。7月15日には、まずバンダアチェの小学校、中学校、高等学校、宗教学校に所属する教員を招き、防災教育に関する講義やプロジェクトのアウトプットのひとつである教材の内容について検討が行われました。教員からは、災害前や災害直後における教員の適切な対応や、生徒へのフォローについて教材に反映されるよう意見がありました。7月16日には、バンダアチェの第1中学校において地震避難訓練が実施され、全校生徒約600名が参加し、非常時における適切な避難路と避難場所の確認を行いました。教員の適切な誘導不足や、避難までに費やした時間、課題は多くありましたが、今後外部支援に頼ることのない独自での活動を行い、少しずつ課題を解決してゆきたいと、話し合われました。

本事業は本年で終了しますが、最終的に防災教育活動が独自で運営される仕組みが、インドネシア国内で広められるよう、支援を行っていききたいと思います。



[避難訓練の様子]

●ADRC客員研究員レポート

アンナ・リサ・ドゥマギン・オラーリオ (フィリピン)

はじめまして。私はフィリピンのマリキナ市からきました、アンナ・リサ・ドゥマギン・オラーリオと申します。私はフィリピンの民間防衛室 (OCD) で12年間勤め、現在は開発部署のチーフ代行を担当しています。この役職においては、OCDで取り扱う主な災害に関する業務報告書の作成支援を行っています。また自然災害のみならず、人的災害を含んだ情報を伝えるための報告書作成や、非常時にいて、OCDの地域事務所や地方政府に緊急通知を準備し報告する業務なども行っています。

OCDは国家災害リスク軽減・管理評議会 (NDRRMC) の業務実施機関および事務局として運営されています。このNDRRMCは国家災害対策委員会 (NDCC) と同等機関としても知られています。OCDでの主たる役割は、緊急時における生命及び財産の保護を目的として活動する、様々な政府機関や代行機関、民間企業や市の組織などの活動支援を行うことです。また、NDRRMCの政策やプログラムの実施をモニタリングし、国家評議会へ報告等も行っています。さらに、OCDのミッションは、コミュニティにおける災害リスクの軽減を目的とした継続的開発における、包括的な民間防衛と支援に関連するプログラムを実施することです。

日本の災害リスクの軽減計画と実施プログラムは、他国の政府機関がどのようにして復興及び開発を実施するか、という観点において大変有効的です。これらのプログラムは、発展途中国において、それぞれの国の状況や現場に合わせて、適応及び実施可能なモデルとなっています。ADRCの客員研究員プログラムは、災害管理における研究を行う素晴らしい機会だと思います。私が本プログラムへの参加できたことは大変光栄です。滞在期間中は、日本及びADRCのメンバー国で採用されている災害リスクの軽減と管理手法について、より多くを学びたいと思います。



シシラ・ワニナヤケ（スリランカ）

はじめまして。私はスリランカから来日いたしました、シシラ・ワニナヤケと申します。私は同国の防災人権省国家災害管理局（DMC）に所属し、クルネガラ県（Kurunegala District）の事務所で局長補佐を担当しています。DMCは、スリランカ国の防災省の管轄下に位置していて、災害管理を全般的に取り扱う機関です。DMCに勤務する以前は、土地利用の政策に関する部署に8年間勤めていました。また学生生活においては、1996年にスリランカのペラデニヤ（Peradeniya）大学において地理学課程を卒業し、その後、2006年に天然資源管理に関する修士号を同大学で取得しました。また、2010年には自然災害管理に関する修士課程において、研究調査を行ってきました。

近年、スリランカにおける災害数の増加に伴って、スリランカ政府は将来発生が予測される自然及び人的災害から、人名及び財産の損失を最小限に抑えることを目的に、災害管理システムの整備拡張に着手しました。その結果、2005年5月13日に災害管理法が制定され、スリランカ国立防災センター（NDMC）とDMCが、この法の規定に従って、災害対応機関として設立されました。DMCは「スリランカにおける安全なまちづくりと継続的な開発」を主たる目的として設定しています。また、それぞれのミッションは「自然、科学技術、人的災害のリスクにおける組織的な管理を通して、地域から国家を通して安全な文化を構築する」ことを目標としています。私はこれらの基本的概念のもとで、担当地域のクルネガラ県において業務を遂行し、多くの防災活動を実施しています。

ADRCの客員研究員プログラムは、私と私の国にとって、日本の災害対策について学ぶことができる大変すばらしい機会です。災害管理における日本の役割は、悲劇的な災害を直面する際に多くの経験や知識が活用されることが特に印象的です。私が滞在する間にこれらの経験を学び、また、多くの学生や地元の人たちと交流を行い、様々な行事や食文化などを通して、日本の文化に触れることを期待しています。

最後に、このような素晴らしい機会を与えて頂いたADRCとスリランカ政府およびDMCの皆様に改めて感謝を申し上げたいと思います。



問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。